

## 令和6年度 第2回浦安市郷土博物館協議会議事録

1 開催日時 令和7年3月11日(火) 14時～15時45分

2 開催場所 郷土博物館 視聴覚室

### 3 出席者

(委員) 明保委員長、館副委員長、大村委員、西澤委員、前田委員、吉野委員、男全委員

(事務局) 郷土博物館長、郷土博物館職員4名

(傍聴人) 3名

### 4 議 事

報告事項(1) 令和6年度 郷土博物館事業報告

(2) 令和6年度 企画展「浦安の漁撈—刺網漁—」開催案内

その他

### 5 協議概要

#### (1) 令和6年度 郷土博物館事業報告

配付資料に基づき、事務局より説明した。  
主な質疑・応答については、下記のとおり。

(委員) 「浦安市郷土博物館が浦安の発展にどのような役割を果たしているか」とAIを使って調査してみたところ、「地域文化の保存と展示」「市民参加の促進」「教育との連携」との回答を得た。これからの浦安の課題は人口減少であり、特に顕著なのは子どもの減少である。この問題に対して、博物館は、過去を踏まえた未来への提言を期待されていると思う。そのため、まずジュニア学芸員の輪を広げて、博物館や学校以外でも活躍できると良い。また、東日本大震災の浦安の職員の対応は非常に良かったので、職員の体験談をまとめて残してほしい。そして、浦安の家計を支えたのは貝むきをしていた女性たちであると思うため、ぜひ女性史もまとめてほしい。また、これからはAIをどのように活用していくかも考えていくべきだと思う。情報発信等に積極的に活用してほしい。

(委員) ボランティアの減少・高齢化については、どのような考えがあるか。

(事務局) ボランティアの育成は非常に難しいことを実感している。かつては、1人のボランティアに聞けば、浦安の町のことから漁のことまで知ることができたが、生活や生業が変化した現在では難しい。これからは、オールマイティに色々なことができるボランティアではなく、得意分野に特化したボランティアを育成していきたい。

(委員) 博物館ボランティア「もやいの会」はどのような形態で活動しているのか。

(事務局) 博物館サポーターの集合体という形で、会長や会計を置く一つの団体ではない。現在日常的に活動している会員は約30人であり、ボランティアの自主性を重んじ、自由に来館してもらっている。また、今年度は学校授業の

際に、博物館や市役所の元職員にも協力を依頼するなど、新しい形で博物館と関わる人を増やしている。

- (委員) 女性史について、西脇いねさんが著書でたくさんまとめてきている。現在様々な事業が行われているが、市役所横の梅園を活用した梅仕事もやってみるとさらに広がりが出るのではと思う。当館は、基本コンセプトである「生きている博物館」が信条だと思うので、子供たちが足しげく通う、生活の中にある博物館ということを活かして行ってほしい。
- (委員) 酷暑で来館者が落ち込む時期に、好評だったという大人向けの体験事業を実施してみると良いのではないかと。お盆期間は時間のある大人も多いと思うし、子どもが楽しいことは大人も楽しいと思う。
- (事務局) お盆の時期は帰省等で来館者が少なくなることもあり、体験事業等はあまり行ってこなかったが、大人向けのイベントや歴史講座等、涼しい館内でもできることも考えていきたい。  
今年度、公民館の主催講座等で博物館に来館する層が増えたが、市民でも初めて来館したという人が多かった。発信方法も含め、大人に興味を持ってもらえるような事業を行っていきたい。
- (委員) ボランティアになってください、とお願いするだけではなく、ボランティア活動によって、その人にどのような楽しみがあるのか、ボランティアに参加する側の喜びを考えて、活動を支援するのも良いと思う。
- (委員) 博学連携事業について、重要な教育の一環であると考えている。ジュニア学芸員は、子どもながらも浦安のためにと誇りを持って活動しているため、大人になっても浦安のために活躍してくれると思う。  
浦安の教育ビジョンの中に「郷土愛を育むこと」とあるが、「ふるさと浦安作品展」を通し、確実に育っていていると思う。一方で、中学生の活動については、夏休みの活動に特化しているなど、まだ課題がある。郷土博物館活用推進委員会でもいろいろ検討しているので、一步一步進めていきたい。  
また、AIはこれから教育現場でも確実に重要になってくる。AIに頼るわけではなく、一つの手段として活用することが大切だと思う。本物に触れることが博物館の醍醐味だと思うので、うまく活用して行ってほしい。
- (委員) 酷暑で入館者数が減少しているのには驚いた。涼しい夜間開館等も検討してみてもよいのではないかと。  
今の事業の中でも、大人の興味をひくものがたくさんあると思うので、どういふところをターゲットにしたいかを明確にしてPRするとよいと思う。かつては生業だったものでも、遊び感覚でやってみることで、浦安の文化を大人に知ってもらえる機会になり、技術・知識の継承に繋がると思う。  
未来の提言について、「ふるさと浦安作品展」がまさにそうではないか。データもしっかり揃っており、ホームページ等で紹介しても良いと思う。
- (委員) 小学校4年生の音楽の教科書には祭囃子が掲載されており、音楽の先生に活用してほしい。
- (事務局) 三社例大祭があったこともあり、今年度は初の試みとして、小学校への出前講座で浦安囃子保存会に祭囃子の講習を行っていただいた。
- (委員長) 「地域文化の保存と展示」「市民参加の促進」「教育との連携」というコンセプト、未来への提言、女性史、大人向け講座など様々な話題が出たが、まとめていただきたい。

(事務局) 博物館が未来への提言をするのではなく、これまでや現在の浦安を紹介することで、これからどうしていくか、ということ子どもたちに考えてもらうための種まきができると考えている。一方で大人には、なぜこの技術が必要だったのか、この形で残っているのかということを感じてもらい、次に発信する側になって、博物館との関わりの輪が広がるようになってほしいと考えている。

女性史については、開館時に悉皆調査を行い、浦安の女性の力や生活の中での重要性を記録している。博物館エントランスにあるレリーフも、女性が大きく生き活きと描かれているため、聞き取り調査をもとに今後紹介していきたい。

## (2) 令和6年度 企画展「浦安の漁撈—刺網漁—」開催案内

配付資料に基づき、事務局より説明した。  
主な質疑・応答は、特になし。

### その他

(委員) 博物館の利用団体について、市内団体より市外団体が非常に多くなっている。入館料等、市立の博物館としてどう考えているか。

(事務局) 公立博物館は博物館法で原則入館料無料と定められており、また、入館料を徴収するとそれに付随するコストが多くなってしまうため検討していない。しかし、体験事業等、実費がかかるものについては市内外で差別化を図っても良いのではという意見は館内でも出ている。

(委員) 一般来館者の市内外の割合の統計は取っていないのか。

(事務局) 基本的には取っていないが、コロナ禍の際、来館者全員の連絡先を記録していたことがある。あくまで参考ではあるが、その際の記録では市民7割、市外3割であった。

(委員) 新聞で、公立博物館の収蔵庫が足りないという記事を見たが、当館の状況はどうか。

(事務局) コロナ禍の休館時に整理をしたため、すぐに埋まるというほどではないが、ほぼ満杯である。近隣市の事例では、収蔵庫が足りない場合、民間の倉庫や学校の空き教室を借りているということである。博物館資料は、保存しているということが重要であるため、事例調査をしながら今後について検討していく。

(委員) 資料の取捨選択をして、廃棄するということはないのか。

(事務局) 経年劣化や破損するものもあるので、廃棄することもある。しかし、同じ資料でも、時代や地域によって違う特徴を持っているなど、比較することが大切であるため、安易に廃棄しないようにはしたい。

以上をもって、令和6年度第2回浦安市郷土博物館協議会は閉会した。